

■ 景観形成基準

○ 全体

区分		景観形成基準
基本事項		<ul style="list-style-type: none"> 「良好な景観の形成に関する方針」の内容を基本とし、周辺の景観と調和した景観形成に努める。
建築物	配置	<ul style="list-style-type: none"> 道路や公園など公共用地との境界を考慮し、その位置関係に配慮する。 隣接地の状況をふまえ、適切な配置に努める。 歴史的な建造物など優れた景観資源の周辺においては、その位置関係に配慮する。
	高さ	<ul style="list-style-type: none"> 既存の良好な眺望を妨げないよう配慮する。 山並みの稜線などに配慮した高さとする。
	形態意匠	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の建築物などとの調和に配慮し、圧迫感や威圧感を与えない形態とする。
	色彩	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の景観と調和する落ち着いたある色彩を基調とし、高明度、高彩度の色は避ける。
	建築設備	<ul style="list-style-type: none"> 屋上工作物の色彩は、当該建築物および周辺景観との調和を図る。
工作物	配置	<ul style="list-style-type: none"> 道路や公園など公共用地との境界を考慮し、その位置関係に配慮する。 隣接地の状況をふまえ、適切な配置に努める。 歴史的な建造物など優れた景観資源の周辺においては、その位置関係に配慮する。
	高さ	<ul style="list-style-type: none"> 既存の良好な眺望を妨げないよう配慮する。 山並みの稜線などに配慮した高さとする。
	形態意匠	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の建築物などとの調和に配慮し、圧迫感や威圧感を与えない形態とする。
	色彩	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の景観と調和する落ち着いたある色彩を基調とし、高明度、高彩度の色は避ける。
開発行為及び土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘削その他の土地の形質の変更		<ul style="list-style-type: none"> 開発後の状態が、周辺の景観と調和するよう努める。 既存の地形を活かし、できるかぎり長大なのり面や高い擁壁が生じないように配慮する。 のり面が生じる場合に、圧迫感を与えないよう緩やかな勾配とし、周辺の植生と調和した緑化に配慮する。 通りや視点場から目立たないように、位置や規模の工夫に努める。
木竹の伐採		<ul style="list-style-type: none"> 地域のシンボルとなっている樹木の保全・活用に努める。 できるかぎり伐採の面積は最小限とし、行為後には地域に生育する樹木の植栽など景観の復元に努める。 通りや視点場から目立たないように、位置や規模の工夫に努める。 森林保全や竹林の対策などで必要な場合には、上記は該当しないものとする。
屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積		<ul style="list-style-type: none"> 通りや視点場から目立たないように、位置や規模の工夫に努める。 堆積等の面積は最小限に留め、できるかぎり高さを抑える。

○建築物規模別

<2階建て以下の規模の小さな建物>

区分		推奨ルール	最低限守るルール
建築物	屋根形状	<ul style="list-style-type: none"> 2方向以上に勾配のある屋根とし、軒の出を確保する。 屋根勾配は周囲のまちなみに調和させる。 	
	屋根材料	<ul style="list-style-type: none"> 赤瓦の瓦屋根を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤瓦以外を採用する場合は、屋根の色彩は黒又はグレーとする。
	開口部	<ul style="list-style-type: none"> 川に対して開放的な設えとする。 木製建具、戸袋、窓枠、手摺、高欄、霧除け庇など積極的に木質化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アルミサッシュなどを採用する場合は、建具の色彩は外壁などと調和するグレーや濃茶等とする。
	外壁	<ul style="list-style-type: none"> 板張、塗壁など自然素材を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> その他の素材を用いる場合、色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ(聚楽系)、グレー、濃茶などのアースカラーとする。
	シャッター	<ul style="list-style-type: none"> 夜間や休日の店舗等を閉鎖的に見せないため、建具、ショーウィンドウ、透過可能なシャッター等を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鎧戸シャッターの新規設置は避ける。
	店構え	<ul style="list-style-type: none"> 下屋庇やオーニングの設置、デッキテラスの設置、おもてなし表現などにより人を迎える構えとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 正面を覆う看板建築は避ける。
	設備機器	<ul style="list-style-type: none"> 設備機器を通りに露出させない。 	<ul style="list-style-type: none"> 通りに露出する場合は、木製の柵などで隠すか色彩を濃茶とする。
	サイン看板	<ul style="list-style-type: none"> サイン・看板は、過度な大きさ・掲出数を避ける。 サイン・看板は自然素材(木板・陶板・鉄板等)を積極的に活用する。 のれんやのぼりの意匠に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の誘導看板の設置は避ける。 内照式看板の設置は避ける。 色彩は原色や高彩度色は避ける。
工作物	車庫	<ul style="list-style-type: none"> 納屋と一体となった車庫を継承する。 車庫の外壁は板張りを基本とする。 開口部には木製扉を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 車庫にシャッターを用いる場合は濃茶などの色彩とする。 屋根の色彩は黒又はグレーとする。 カーポートを設置する場合は通りに露出させない。
	付属屋	<ul style="list-style-type: none"> 地区の特性に合った付属屋の設えを継承する。 外壁は板張りを基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋根の色彩は黒又はグレーとする。 既製品の物置等は通りに露出させない。
夜間照明		<ul style="list-style-type: none"> 外観について行う照明は電球色を基本とする。 道や広場に面した樹木、まちのシンボルは、できるかぎりライトアップに努める。 	—
敷地境界		<ul style="list-style-type: none"> 地区の特性に合った塀垣、門、擁壁、前庭の設えを継承する。 まちなみの連続性が途切れている箇所には、積極的に塀・垣を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 金網フェンスやブロック塀の新規設置は避ける。
駐車場		<ul style="list-style-type: none"> 駐車している車を通りに露出させない。 	

<3階建て以上の規模の大きな建物>

区分		推奨ルール	最低限守るルール
建築物	建築規模	<ul style="list-style-type: none"> • 建物の高さや配置は周囲の建物の川への眺望を妨げないよう配慮する。 • 建物のボリューム感を緩和するよう配慮する。 • 建物の高さを沿道のまちなみに馴染ませるよう配慮する。 • 連続する壁面を分節し、まちなみに馴染ませるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 建物の高さや配置は周囲の建物の川への眺望を妨げないよう配慮する。 • 建物のボリューム感を緩和するよう配慮する。 • 建物の高さを沿道のまちなみに馴染ませるよう配慮する。 • 連続する壁面を分節し、まちなみに馴染ませるよう配慮する。
	開口部	• 川への眺望を楽しむ文化が生み出してきた温泉街の風情を継承する。	
	外壁	<ul style="list-style-type: none"> • 単調な外壁の意匠は避け、温泉街の風情を感じる豊かな建物の表情とする。 • 外壁の色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ（聚楽系）、グレー、濃茶などのアースカラーとする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 単調な外壁の意匠は避け、温泉街の風情を感じる豊かな建物の表情とする。 • 外壁の色彩は自然素材が経年美化した色調である、白、ベージュ（聚楽系）、グレー、濃茶などのアースカラーとする。
	屋根	• 赤瓦以外を採用する場合は、屋根の色彩は黒又はグレーとする。	
	設備機器	• 設備機器を通りに露出させない。	• 通りに露出する場合は、木製の柵などで隠すか色彩を濃茶とする。
	サイン看板	• サイン・看板は、過度な大きさ・掲出数を避ける。	<ul style="list-style-type: none"> • 事業所の誘導看板の設置は避ける。 • 内照式看板の設置は避ける。 • 色彩は原色や高彩度色は避ける。
夜間照明	<ul style="list-style-type: none"> • 外観について行う照明は電球色を基本とする。 • 道や広場に面した樹木、まちのシンボルは、できるかぎりライトアップに努める。 	—	
敷地境界	• 板塀や石塀、門、生垣や庭園などによる上質なまちなみを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> • 金網フェンスやブロック塀の新規設置は避ける。 • コンクリート擁壁の露出は避ける。 	
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車している車を通りに露出させない。 • 駐車場の入口は集約し、幅は最小限とする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車している車を通りに露出させない。 • 駐車場の入口は集約し、幅は最小限とする。 	